

# 教育研究業績書

氏名 藤尾 かの子

教育上の能力に関する事項	研究実施年度	概要
(外部資金獲得状況) 2015-16年度中国四国教育学会「課題研究」研究助成(分担)課題名:スウェーデンの就学前学級における音楽教育の意義	平27年度-平28年度	わが国の幼稚園から小学校の接続期の音楽教育の在り方への示唆を得ることを目的として、スウェーデンの就学前学校、就学前学級、基礎学校における音楽活動についての調査を行った。
日本私立学校振興・共済事業団 2019年度女性研究者奨励金 課題名:保育環境の「静けさ」と幼児の協同的音楽活動の相関	令1年度	幼稚園でのフィールドワークを通して、保育環境における「静けさ」と幼児の協同的な音楽活動の相関関係について考察した。
日本私立学校振興・共済事業団 2020年度女性研究者奨励金 課題名:「保育の質」確保・向上のための音環境整備に関する研究	令2年度	保育における音環境の評価スケールを作成するにあたっての理論的基盤を構築することを目的として、全国のモンテッソーリ園へのアンケート調査を実施し、保育者の音環境に対する意識と音環境にモンテッソーリ教育が与える影響について明らかにした。
科学研究費補助金 若手研究 課題名:「保育の質」確保・向上のための音環境整備に関する研究	令2年度-令4年度	モンテッソーリ園の保育環境における静けさの具体的な性質を明らかにすることを通して、保育の音環境における理想的な評価スケールの作成に示唆を与えることを目的とした研究である。

著書, 学術論文などの名称	単著, 共著の区別	発行又は発表年月日	発行所, 発行雑誌等又は発行学会等の名称	概要
(博士論文) モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の特質	単著	平30.3	広島大学大学院	広島大学大学院教育学研究科に提出した博士論文。本研究では、モンテッソーリ、マッケローニ、パーネット、及びミラーの史料をもとに、彼女ら各々の音楽教育論とそれに基づく音楽教育の内容を明示し、それぞれの音楽教育観を明らかにした。最終的に、彼女らの考案した音楽教育が、モンテッソーリ・メソッドの枠組みにおいてどのような位置付けであるのかを考察した上で、モンテッソーリ・メソッドに基づく音楽教育の特質について論じた。

(学術論文) モンテッソーリ・メソッドにおける歌唱活動の特徴—A.M.マッケローニの音楽教育に着目して	単著	平28.12	『広島大学大学院教育学研究紀要』第2部, 第65号(広島大学大学院教育学研究科)	マッケローニの歌唱指導の全貌を明らかにし、その特徴を考察することを目的とした。検討の結果、①音感ベルの活動に連動して、歌の要素を取り入れていること、②音感ベルを用いて1人で歌う形態から始まり、徐々にグループ活動を取り入れていること、③歌唱活動で使用される言葉は、容易なものから複雑なものへと少しずつ発展していること、という3点の特徴が明らかとなった。pp.283-292.
モンテッソーリ・メソッドにおける音感ベル指導法の発展—J.K. Millerの音楽カリキュラムに着目して—	単著	平29.3	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第62巻(中国四国教育学)	現在、モンテッソーリ・メソッドをベースとして幼稚園および小学校課程における音楽教育の実践に携わっているミラーの音感ベル指導法に焦点を当てた。音感ベル指導法を考案した先駆者であるマッケローニとミラーの指導法を比較し、差異を明らかにすることによって、ミラーがどのように独自の視点を加えたのかを考察した。pp.506-511.
スウェーデンにおける保幼小接続期の歌唱活動—マルメ市R基礎学校の就学前学級における実践をもとに—	共著	平29.3	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第62巻(中国四国教育学会)	接続期を重視して行われているスウェーデンの音楽活動から、わが国の音楽教育における保幼小連携問題への示唆を得ることを目的とした。本研究では、マルメ市のR基礎学校(小学校)に付設している就学前学級、及び同校の1年生の音楽教育実践を取り上げ、就学前学級における音楽活動の意義の一端を明らかにした。pp.323-327.
モンテッソーリ・メソッドにおけるA.M.マッケローニの幼児・児童を対象とした音楽指導法—Music Book: Melodyの検討を通して—	単著	平29.3	『音楽文化教育学研究紀要XXIX』(広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座)	マッケローニによって著された幼児および児童を対象とした音楽指導書の中から第5巻Melodyに焦点を当て、活動内容、教具・教材配置等の視点から彼女の音楽指導法を検討した後に、すでに検討している第1巻から第4巻にかけて見られる音楽指導法の系統性を考察した。その結果、第1巻に示される課題が第2巻の課題の踏台となっており、習得した音楽的要素を次の学習においても展開、応用できるように仕組まれていることが明らかになった。pp.41-46.
M.モンテッソーリの音楽教育観の変遷	単著	平29.3	『モンテッソーリ教育』第49号(日本モンテッソーリ協会)	モンテッソーリの著書、および、筆者がAssociation Montessori Internationaleから提供を受けた未出版の講義録の内容を精査することを通して、モンテッソーリの音楽教育観の特色を解明することを目的とした。なお、彼女の音楽教育に関する理論と実践の発展過程には変化が見られるため、それらがどのように発展を遂げたか明確にした。pp.83-99
モンテッソーリ・メソッドの音楽領域における「聴く」活動の特徴—J.K.Millerの博士論文の検討を通して—	単著	平30.3	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第63巻(中国四国教育学会)	ミラーの博士論文“The Montessori Music Curriculum for Children up to Six Years of Age.”に示されている、幼児を対象としたモンテッソーリ音楽のカリキュラムの中から、彼女が構成した「聴く」活動に焦点を当て、その特徴を明らかにした。pp.272-277

モンテッソーリ・メソッドにおける 幼児の音楽表現活動の位置づけ — J. K. Millerによる音楽カリキュ ラムに着目して—	単著	平30.3	『音楽文化教育学研究 紀要XXX』(広島大 学大学院教育学研究 科音楽文化教育学講 座)	ミラーの音楽カリキュラムの中でも、とりわけ幼児の音楽表現の要素を含む「楽器」及び「ゲームと音楽表現」領域に焦点を当てる。まず、これらの各領域の活動内容及び指導法を明らかにすることから始め、ミラーの提案する幼児の音楽表現活動の特徴を考察する。そして、それらをもとに、ミラーの提案する幼児の音楽表現活動が、モンテッソーリ・メソッド全体においてどのような位置づけであるのかを解明した。pp.21-30
モンテッソーリ園における音楽活 動の現状と保育者の音楽指導観 —質問紙調査の分析をもとに—	単著	平31.3	『音楽文化教育学研究 紀要』31号(広島大 学大学院教育学研究 科音楽文化教育学講 座)	広島県内のモンテッソーリ園における保育者を対象とした質問紙調査を通して、音楽活動の実施状況と、保育者の音楽指導観を明らかにした。pp.33-38.
近年のモンテッソーリ教師養成に おける音楽教育の動向 —モンテッソーリ園における音楽 活動の実施状況の分析を通して —	単著	平31.3	『教育学研究紀要 (CD-ROM版)』第64巻 (中国四国教育学)	モンテッソーリ教育の国際的な組織Association Montessori Internationaleが統括する、3-6歳レベルの教師養成における音楽教育の実際、及び、音楽を通して子どもに身に付けさせる技術・能力等について明らかにした。さらに、これらの基準と、我が国のモンテッソーリ園における音楽活動の実施状況を比較することを通して、国際基準での音楽教育を保育現場に導入するための課題について言及した。pp.665-670.
保育者の表現指導を支える思想 と今日的課題への対応—モンテッ ソーリ教育の幼稚園での観察と 半構造化インタビューを通して—	共著	令2.3	『エリザベト音楽大学 研究紀要』41巻(エリザ ベト音楽大学)	モンテッソーリ園の保育者らが現代の教育界の要請に特定の思想を軸とする保育実践をどのように適応させているのかを検討した。その結果、保育者らは、①子どもの意思や興味を音楽活動の出発点としていること、②子どもの発達過程に沿って対応すること、③成果主義ではなく、子どもの満足感・達成感を重要視するということが明らかになった。こうした、子どもならではのこだわりや、子ども自身の表現したい気持ちを汲み取りながら展開する音楽指導の在り方は、子ども一人ひとりの発達を踏まえながら、子どもの主体性と保育者の意図がバランスよく絡み合っ成り立つ保育を目指すわが国の幼児教育の方向性にも一致していることが分かった。pp.15-25
モンテッソーリ教育における「静 粛の練習」の今日的意義—全国 のモンテッソーリ園の保育者を対 象としたアンケート調査を通して—	単著	令4.3	『教育学研究紀要 (CD-ROM版)』第67巻 (中国四国教育学)	モンテッソーリ園に静けさが生起する1つの要因として重要な役割を果たしているような活動である「静粛の練習」に着目した。全国のモンテッソーリ園に勤める保育者を対象として、「静粛の練習」に関する質問を含む保育の音環境に関するアンケート調査の結果を分析することにより、モンテッソーリ教育における「静粛の練習」の今日的意義を検討した。分析の結果、「静粛の練習」を通して、子どもには「耳を澄まして周囲の音をよく聴く姿勢が身に付くこと」、「身体の動かし方・使い方を調整し、工夫すること」、「落ち着きのある態度で音楽活動に取り組むこと」という3点が身に付いていることが明らかになった。pp.608-613
子どもの主体的な音表現を支え るための体験的な学習—保育者 養成課程の学生を対象とした混 合研究法を用いて—	共著	令4.3	『音楽教育学』第51巻2 号(日本音楽教育学 会)	本研究は、子どもの目線に立った体験的な学習が、子どもの主体的な音表現を促すための保育技術にどのように影響するのかを明らかにすることを目的とした。4年制の保育者養成課程に在籍する大学生168名を対象に、子どもの立場で表現活動を実践させた上で、5件法と自由記述による質問紙調査を実施した。表現活動は、グループに分かれて、終始擬音語で物語が進む絵本の抜粋を解釈し、楽器で表現するものである。各調査の結果、学習者が、子どもの立場で実践を行う有効性を「イメージの具体化と方略の発見」「素材に対する柔軟な視点の獲得」「支援の技術の伸長」の3点に見出すことができた。pp.25-35
幼児の音楽活動を支える保育者 の意識と指導の実態—モンテッ ソーリ教育の幼稚園における音 環境に着目して—	単著	令5.3	『エリザベト音楽大学 研究紀要』43巻(エリザ ベト音楽大学)	モンテッソーリ教育のX幼稚園に着目し、騒音測定による量的調査および保育者らへのインタビューと音楽活動の観察による質的調査の両面から幼稚園の音環境と幼児の音楽活動との関連について検討した。X幼稚園の騒音測定の数値は、先行研究で示されてきた数多くの幼稚園での騒音測定データと比較して静かであり、音楽活動時を含み、理想的な音環境が担保されていることが証明された。このX幼稚園の静けさは、モンテッソーリ教育の理念に基づいて生じたものであり、保育者の教育的な配慮のもとで過ごす子どもの集中力や精神力からもたらされるものであることが明らかとなった。pp.1-13
保育の音環境にモンテッソーリ 教育法が与える影響—A幼稚園の 教諭へのインタビュー調査・騒音 測定・リズム活動の観察を通して —	単著	令5.3	『教育学研究紀要 (CD-ROM版)』第68巻 (中国四国教育学)	モンテッソーリ教育園である東京都の私立A幼稚園を対象とし、教諭2名の保育の音環境に対する考えおよびモンテッソーリ教育観が、実際の保育の場面、とりわけ音楽のリズム活動にどのように反映されているのか、観察および騒音測定の結果と照合することによって考察した。その結果、①日常の保育全般において、1人1人の子どもの興味・関心に沿った形での活動を中心とする保育形態であることが、子どもの内発的動機を満たしていること、②教諭の個々の子どもに寄り添おうとする「子ども理解」が、子どもの情緒の安定に大きく影響していること、という2点が明らかになった。pp.413-418
(実践報告) 幼稚園教諭養成課程における音 楽教育のカリキュラム開発 —協同的な学びを目指して—	共著	平31.3	『エリザベト音楽大学 研究紀要』39巻(エリザ ベト音楽大学)	本学の幼児音楽教育専修の1~4年生が合同で受講する「幼児音楽教育特殊研究Ⅰ・Ⅱ」に焦点を当て、学生がこれまでの学びを通して身に付けた音楽の技術・知識の実際について検証した。さらに、質的かつ量的な分析を通して、音楽の表現力を深めるにあたっての学生自らの課題点を明らかにした。pp.75-80.

(著書) 現代に生きるマリア・モンテッソーリの教育思想と実践—空想的想像力から科学的創造力へ—	共著	平28.8	KTC中央出版	第4章「モンテッソーリ教育における自己表現活動の理論と実践 2モンテッソーリ教育における音楽教育の内容・方法とその発展」の執筆を担当した。pp.123-143.
改訂4版 幼児の音楽教育法—美しい歌声をめざして—	共著	平31.3	ふくろう出版	第7章第4節「モンテッソーリ教育における音楽指導法」の執筆を担当した。pp.78-80.
保育原理	共著	平31.3	溪水社	第9章第1節「世界における保育思想と歴史の変遷」の執筆を担当した。pp.86-90.
コンパス 音楽表現	共著	令2.4	建帛社	第1章「領域『表現』とは」より第2節「乳幼児の音楽的表現の発達」、第3節「小学校音楽科教育との連続性」pp.4-10、第12章「音楽教育メソッド」より第4節「モンテッソーリと音楽」pp.130-133、および、コラム「子どもの家」p.134を担当した。
子どもの姿からはじめる領域・表現	共著	令3.4	みらい	第8章第1節2身近な自然環境からの造形的感性・音楽的感性の芽生え、「第8章第2節聴いたり、感じたりすることを楽しむ環境構成」を担当した。pp.129-133
保育者論	共著	令4.3	溪水社	第1章第4節「幼稚園教諭の職務内容」の執筆を担当した。pp.7-10
改訂5版 幼児の音楽教育法—美しい歌声をめざして—	共著	令5.3	ふくろう出版	第7章第4節「モンテッソーリ教育における音楽指導法」の執筆を担当した。pp.88-91
(報告) 第14回音楽教育ゼミナール(目白ゼミナール)を終えて「夏期ゼミナールに参加して」	共著	平28.12	『日本音楽教育学会ニュースレター』第66号(日本音楽教育学会)	柴崎かがり氏(University of Huddersfield, UK)を講師に迎え開催された、若手研究者が国際学会を目指すためのゼミナール(2016年8月於:日本女子大学)に参加した際の寄稿。p.4.
幼児音楽教育の新たな可能性を探って	単著	令1.12	『日本音楽教育学会ニュースレター』第78号(日本音楽教育学会)	日本音楽教育学会の会員として、これまで自らが行ってきた研究内容や、現在の研究の関心について述べた。pp.8-9.
(書評) 大串健吾・桑野園子・難波精一郎 監修『音楽知覚認知ハンドブック—音楽の不思議の解明に挑む科学—』	共著	令4.3	『音楽教育学』第51巻2号(日本音楽教育学会)	日本音楽知覚認知学会の設立30周年を記念して、これまでの研究成果がまとめられた本書について、各章の概要や本書の意義について述べた。pp.47-48.
(学会発表) モンテッソーリ・メソッドにおける幼小連携の音楽カリキュラム—Jean K. Millerの歌唱活動に着目して—	単独	平28.10	日本音楽教育学会第47回大会(於:横浜国立大学)	ミラーによって考案された、モンテッソーリ・メソッドに基づく幼小の連続的な音楽カリキュラムの中から、歌唱活動に着目し、その特色を明らかにすることを目的とした。検討の結果、①「創作」へと至る段階的な指導法を導入していること、②教師・子どもの相互的なやりとりを重視していること、③歌唱活動を他分野・他教科に関連させていること、という3点の特色が明らかとなった。
スウェーデンの就学前学級における音楽活動—マルメ市のR基礎学校における事例をもとに—	共同	平28.11	中国四国教育学会第68回大会(於:鳴門教育大学)	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第62巻(中国四国教育学会)と同様。
モンテッソーリ・メソッドにおける音感ベル指導法の発展—J.K. Millerの音楽カリキュラムに着目して—	単独	平28.11	中国四国教育学会第68回大会(於:鳴門教育大学)	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第62巻(中国四国教育学会)と同様。
A.M.マッケローニの幼児後期および児童期における音楽指導法— <i>Music Book: A Musical Reader</i> の検討を通して—	単独	平29.2	平成28年度日本音楽教育学会中国四国地区例会(於:エリザベト音楽大学)	幼児後期から児童期の子どもを対象として作成されたマッケローニの音楽指導書 <i>Music Book</i> の最終巻である <i>A Musical Reader</i> に記されている活動内容を分析することを通して、 <i>Music Book</i> 全体から読み取れるマッケローニの音楽指導法の特徴について考察した。
モンテッソーリ・メソッドに基づくJ.K.ミラーの音楽教育観—A.M.マッケローニの音楽指導法との比較を通して—	単独	平29.10	日本音楽教育学会第48回大会(於:愛知教育大学)	ミラーがマッケローニの音楽指導法から受け継いだもの、あるいは受け継がなかったものを考察し、それらの背景にあるミラーの見解を示すとともに、彼女の音楽教育観を明らかにした。

モンテッソーリ・メソッドの音楽領域における「聴く」活動の特徴－J.K.Millerの博士論文の検討を通して－	単独	平29.11	中国四国教育学会第69回大会(於:広島女学院女子大学)	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第63巻(中国四国教育学会)と同様。
モンテッソーリ・メソッドにおける創造性を育成する幼児の音楽カリキュラム	単独	平30.8	日本モンテッソーリ協会(学会)第51回全国大会(於:郡山ビューホテルアネックス)	マッペローニの孫弟子にあたるミラー及びジョーンズの音楽教育に焦点を当て、両者の音楽教育のどのような点がモンテッソーリの定義する「創造性」の育成に寄与するのかということ、各々の音楽教育論及び音楽活動の内容を検討することによって明らかにした。
モンテッソーリ教育実施園における音楽活動の現状と保育者の音楽指導観－質問紙調査をもとに－	単独	平30.10	日本音楽教育学会第50回大会(於:岡山大学)	『音楽文化教育学研究紀要』31号(広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座)と同様。
近年のモンテッソーリ教師養成における音楽教育の動向	単独	平30.11	中国四国教育学会第70回大会(於:島根大学)	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第64巻(中国四国教育学会)と同様。
The Relationship between Nursery Teachers' Action in Expression Activities and the Thought: An Analysis through Observation and Semi-structured Interviews Conducted in Montessori Kindergartens	共同	令1.7	The 20th Pacific Early Childhood Education Research Association Annual Conference (於:Howard Civil Service International House)	モンテッソーリの理念に基づく幼稚園において、幼稚園教諭らが今日の教育課題をどのように捉え、モンテッソーリの思想とどのように調和させながら実践に活かしているのかを、特に音楽活動に着目することによって考察した。
How Does the "First-Person Learning" Effect the Ability of Nursery Teachers to Encourage Musical Expression in Children?	共同	令1.7	12th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research (於:Macao Polytechnic Institute)	一人称的な学び(子どもの立場になって体験する学習)が保育学生の専門知識および技能の伸長に影響を与えるかを実証的に解明した。
保育室における音環境と幼児の音楽活動－モンテッソーリ園の「静けさ」に着目したフィールドワークを通して－	単独	令1.12	日本乳幼児教育学会第29回大会(於:東北文教大学短期大学部)	広島県内のモンテッソーリ園の調査を通して、保育者は音楽の活動時のみならず、日常の保育の中から、自らの振る舞いに配慮し、自然と生み出される「静けさ」に教育的な価値を見出していることが明らかとなった。
幼児の音楽表現を支える保育者の関わりと音環境	単独	令2.11	中国四国教育学会 第72回大会(オンライン開催)	保育者がどのように幼児の音楽表現を支えているのかを、保育における音環境の実態に照らし合わせながら明らかにした。なお、モンテッソーリ教育を実施している幼稚園を対象とし、教育法の特長にも着目しながら分析を行なった。
保育者の音環境に対する意識と音楽表現観－保育者への半構造化インタビューと年中児の歌唱活動の分析を通して－	単独	令2.11	日本乳幼児教育学会第30回大会(オンライン開催)	広島県内のB公立幼稚園を対象とし、保育者の音環境に対する意識と音楽表現の捉え方を明らかにした。その上で、これらと、保育者の幼児への関わり方等を含む実際の保育及びその際の保育室内における音量測定の結果との関連性を考察した。
モンテッソーリ教育における「静粛の練習」の今日的意義	単独	令3.11	中国四国教育学会 第73回大会(オンライン開催)	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第67巻(中国四国教育学)と同様。
モンテッソーリ教育実施園における音環境に対する保育者の意識	単独	令3.12	日本乳幼児教育学会第31回大会(オンライン開催)	モンテッソーリ教育法に着目し、全国のモンテッソーリ園の保育者を対象としたアンケート調査を通して、保育者の保育における音環境に対する意識を明らかにした。それにより、保育の音環境にモンテッソーリ教育が与える影響の具体について検討した。
3歳児のリズム感の習得プロセスの分析－モンテッソーリ教育法におけるリズム活動の実験的実践を通して－	共同	令4.10	日本音楽教育学会第53回大会(ウェブ開催)	モンテッソーリ園でのパーネットのリズム活動の実践を通して、幼児がどのようにリズム感を習得していくのか、そのプロセスを分析した。それを通して、パーネットの考案したリズム活動の教育的意義を明らかにした。
保育の音環境にモンテッソーリ教育法が与える影響－A幼稚園の教諭へのインタビュー調査・騒音測定・リズム活動の観察を通して－	単独	令4.12	中国四国教育学会 第74回大会(於:香川大学)	『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第68巻(中国四国教育学)と同様。

(講座) 一般社団法人 教育ネットワーク 中国主催の高大連携公開講座 「幼児と音楽-楽しい音遊び-」	共同	平29.7	広島県立庄原格致高等学校	高校生を対象とした講座。身近なモノを用いた音楽づくりの実践を行った。
一般社団法人 教育ネットワーク 中国主催の高大連携公開講座 「幼児と音楽-楽しい音遊び-」	共同	平30.7	広島県立庄原実業高等学校	高校生を対象とした講座。言葉のリズムでボディーパーカッションの実践を行った。
一般社団法人 教育ネットワーク 中国主催 高大連携公開講座 「幼児の音楽表現を体験しよう ～身体は楽器～」	単独	令1.7	広島県立庄原格致高等学校	高校生を対象とした講座。身近なモノを用いた音楽づくりや言葉のリズム遊びの実践を行った。
全国芸術系大学コンソーシアム 令和元年度 地区ブロック研修会 (中国・四国地区)小学校音楽	共同	令2.2	エリザベト音楽大学	全体研修②(シンポジウム)「幼児教育から初等音楽教育へ～低学年への歌唱指導を中心に～」のパネリストとして、現在の幼児音楽教育の動向について解説し、勤務校での幼児音楽教育者の育成について紹介した。
(株)さんぽう主催 探求学習講座 「音楽教育ってなに? - 幼児の音楽教育を中心に -」	単独	令2.7	広島県立観音高等学校	高校生を対象とした講座。現代の音楽教育の動向についての講義を行った。
広島県教育委員会乳幼児教育支援センター主催 令和3年度幼稚園新規採用教員園外研修(第6回)	単独	令3.9	オンライン開催	令和3年度幼稚園新規採用教員を対象とした研修園外研修(第6回、オンライン開催)において、「音楽遊び」についての講師を務めた。
(講座・学会等)の企画・運営 カールオルフ講演会「たのしみはアンサンブルから」～オルフ楽器を手がかりに～		平29.3	エリザベト音楽大学 (ザビエルホール)	元武蔵野音楽大学教授 宮崎幸次氏による講演会の企画・運営を行なった。
エリザベト音楽大学 音楽文化学科主催 公開講座「サウンドスケープとユニヴァーサルデザイン - 音楽教育から発信する音楽の普遍項について -」		平31.1	エリザベト音楽大学 (ザビエルホール)	弘前大学教育学部教授 今田匡彦氏による講演会の企画・運営を行なった。
日本音楽教育学会 第9回夏季ワークショップin弘前「つくってあそぼう-地域の芸術経験を目指して-」		令1.8	SPACE DENEGA(弘前市)	実行委員として運営に携わった。
日本音楽教育学会 第16回音楽教育ゼミナール「英語で研究を海外に発信しよう!」		令2.12	オンライン開催	実行委員として運営に携わった。
日本音楽即興学会2021年度総会・第13回大会		令4.1	オンライン開催	大会実行委員長として企画・運営に携わった。